

卓 話

谷藤 哲 会員

<自己紹介>

1972 年 生まれ

趣味／映画、音楽鑑賞、ベース演奏、宇宙の研究、麻雀

尊敬する人／アインシュタイン、ポーア、池波正太郎

1989 年 県立岐阜商業中退後、名古屋～大阪を中心にバンド活動

1992 年 バンド解散後、単身ニューヨークへブロンクス～クイズにて音楽活動

1994 年 バックパッカーで世界 30 か国以上を旅する

1995 年 ベトナム、ホーチミン市を拠点に貿易会社 (有) スプーンフルを設立

1997 年 妻 成味と結婚、一児を授かる

2009 年 ベトナムの会社を売却、帰国

2013 年 株式会社長良川企画 設立、現在に至る



ベトナムでのいろいろな体験談を話そうかと思ったのですが、お昼の話題としては、少し品のない話も多いので、それは、夜の勉強会のときに機会があれば、お話ししたいと思います。

で、今日は僕の趣味で、ライフワークにしたいと思っている宇宙の話をしようかなと思います。実は宇宙についていろいろな勉強をしていると、ある意味、人類の将来に絶望しかないと感じます。地球滅亡のシナリオばかりが目につくからです。

例えば、小惑星の衝突。太陽系にはたくさんの小惑星が飛び回ってしまっていて、地球に衝突する可能性があるものは 2,000 を超えています。その中でも、117 年後に衝突の危険性が高いのが、ベンヌと呼ばれる直径 1 キロ近い小惑星で、もし、衝突すれば、6,000 万年前に恐竜を絶滅させた事件に近い衝撃を与えるそうです。

よく知られている話では、太陽の寿命。約 45 億年後には太陽のエネルギーが尽きて、太陽が膨張し、地球を飲み込んでしまうという事実。

あと、あまり知られていないのですが、月が地球から少しずつ遠ざかっているという事実で、いずれは地球の軌道から外れてしまうという事実です。月がなくなると地球の環境が著しく変化し、生命が危機に晒されます。もちろん、何十億も先の話ですけど。

ならば、地球から飛び出して、どこか別の星に暮らす方法を考えないといけないということで、太陽系だと火星や木星の衛星あたりなら、何とかかなりそうだと考えている人も多いのですが、これらの星も太陽の寿命が尽きたら、終わりのわけですし、あまり意味がない。

そうしたら、昨年、すごいニュースが飛び込んできたんですね。地球から一番近い恒星にプロキシマ・ケンタウルという太陽の 10 分の一くらいの星があるのですが、そこに生物が住める可能性の高い惑星が見つかったというのです。

通称アイボール・アースと呼ばれる地球の 1.2 倍くらいの惑星なんですけど、地球からわずか 4.2 光年しか離れていないのです。そこには、大気があり、海がある可能性が高いらしいのです。とは言っても、現在、もっとも速いといわれているボイジャーでも、7 万年くらいかかる計算ですけど・・・。

もちろん、今現在の技術では到達することもままならないのですが、数百年後のテクノロジーならば、行けるんじゃないかという希望があるんです！ホーキング博士とマーク・ザッカーバーグらが組んで、到達計画を真剣に立てていくくらいですから、現実味があります。